

参議院選挙で要求実現と国政革新の 展望をきりひらこう

7月におこなわれる参議院選挙は、私たちの要求を実現し、日本の平和と民主主義を守るうえできわめて重要となっています。

自民党は89年の参議院選挙で40議席しか取れず、過半数を大きく下回りました。自民党の今回の改選議席は75であり、私たちのとりくみにより今回の選挙で過半数割れをさらに拡大できる状況にあります。

衆参与野党逆転国会のなかで、私たちの要求を実現する可能性は大きくなりました。それは、参議院での消費税廃止法案の可決、被爆者援護法案の可決など、不十分ではありますが前進しています。自民党政治に反対する勢力が一致とりくみをすすめるならば、私たちの要求実現は大きく前進するでしょう。

しかし、現在の政治戦線の特徴は、自民党が単独で政権を維持することが困難な状況にあるにもかかわらず、社公民などの野党が自民党政治に対決するのではなく、自民党にすりより、自民党との連合を競っていることです。とりわけ、連合が自社公民連立政権への橋渡し役をしていることを重視する必要があります。求められているのは自民党との連立ではなく、国民本位の政治への転換をめざした共同のとりくみです。

重大な意義をもつ今回の参議院選挙では次のような労働者・国民の要求実現が求められています。

- ① 労働基準法改正をはじめとして「人間らしく生き、人間らしく働くため」の社会と職場の条件を改善する。
- ② 世界第2位の経済力を生かし、消費税の廃止、医療・福祉・教育の充実、土地・住宅問題の解決など国民生活を真に豊かなものとする。
- ③ 公害やリゾート開発をはじめとした大企業などによる環境破壊を許さず、緑の地球と住みよい自然環境をまもる。
- ④ 小選挙区制をやめ、金権腐敗政治の一掃、日本の民主主義を発展させる。自衛隊の海外派兵をやめ、憲法の平和原則にもとづく国際的貢献をおこない、世界平和の実現をめざす。

各職場でも、参議院選挙をめぐる情勢や意義、参議院選挙にむけての要求などを討議し、参議院選挙を主体的にたたかうことが求められています。企業ぐるみや当局ぐるみの選挙を許さず、政党支持や政治活動の自由を確立して参議院選挙をとりくみます。とりわけ政党選択が問われる比例代表選挙では政党選択の基準を組合員に示し、正しい選択がおこなわれるようにとりくみます。

政党選択の基準は、

- ① 大企業優先でなく、国民のくらしと権利をまもる立場と行動をつらぬく。
- ② 金権・腐敗にいっさい関わることなく、公正・清潔な政治活動をおこなっている。
- ③ 軍事大国化に反対し、憲法を守り、平和な日本と世界をめざす。

などです。

愛労連は、以上の見地を今後のとりくみのなかでさらに深めながら、要求実現と国政革新の展望をきりひらくために参議院選挙をたたかいます。

1992年 2月 8日

愛知県労働組合総連合第6回臨時大会

アピール … 92国民春闘の前進をめざして（案）

全労連・愛労連は、「人間らしく生き・人間らしく働くために」というスローガンのもとに、92国民春闘を大幅賃上げ、労働時間短縮とともに、国政の革新をめざす要求など、広範な労働者・国民とともにたたかう決意をした。

「休日はボロ雑巾のように眠り続ける」「父親のいない夕食」「汗もふけず、トイレにもいけない生産現場」。大企業職場では、労使一体での長期にわたる低賃金の押しつけや長時間・超過密労働によって、健康破壊の不安は充満し、過労死が多発。家庭が破壊されている。

臨調「行革」路線がすすめられて10年。医療・福祉・教育は改悪され、国民負担が増大。「福祉がいのちを奪っている」といわれるほど、国民のいのちと暮らしは深刻な状況となっている。

さらに追い打ちをかけるように日経連は、春闘を前にして、「人類愛・ゆとり・豊かさ」を強調しながら、賃上げ・労働時間短縮はしないと労働者の要求を押しさえつけてきている。

軍縮・平和が世界の流れとなってきたいま、世界の動きに逆行して軍事費を増大している自民党政府。大企業は、バブル経済をつくりだし、土地・株式投機と日本中を乱開発して、すさまじいばかりに不当な儲けを上げてきている。

「共和汚職・東京佐川急便事件」は、金で政治が動き、金で大臣のイスが買えるなど、金権・腐敗の政治の醜さを国民の前にさらけだしている。

いまの日本は、大企業本位の政治が横行し、国民を踏みつけにし、労働者のいのちを奪っている。

経済が発展すればするほど、国民生活は豊かになり、労働者は長時間・過密労働から解放されるはずが、みせかけの豊かさのもとで貧しさが増大している。

自民党政府・財界と労働者・国民との矛盾はかつてなく激化し、怒りのエネルギーが充満している。

私たちは、全労連・愛労連結成以来、二度にわたる国民春闘をとりくみ、一定の成果を上げてきた。また、自衛隊の海外派兵や小選挙区制導入など自民党政府・財界の反動攻勢を国民的な運動の先頭に立ち、阻止してきた。

92国民春闘では、このような運動の教訓のもとに、職場・地域を基礎としながら、広範な労働者・県民に呼びかけ。自民党政府と独占資本を社会的に大きく包囲する運動とともに、あらゆる傾向の労働組合・団体との共同をつくりだす運動を基本として奮闘する。

日本は、世界は、激動している。たたかいの飛躍をつくりだす絶好のチャンス。92国民春闘の前進をめざして職場・地域とともに奮闘しよう！

1992年2月8日

愛知県労働組合総連合第6回臨時大会